



曖昧な「主体性」の概念

玉城 政光

先月、東京で開かれた日本教育方法学会に出席した。そこで行われたシンポジウム（課題研究）に参加した際に特に感じた点を書いてみたい。シンポジウムは二回にわたって行われた。いずれも三分科にわかれて異ったテーマで討論がなされた。私が参加した分科のテーマは、一回目が「教育における規律の問題」、二回目が「現職教育と教育実習のあり方」であった。両方のシンポジウムに出席して、特に感じた点は主体性の問題であった。前者においては、規律は児童・生徒の主体性から出たものでなければならず、彼等に最大の自由を保障してやるべきだと提案された。後者においては、現職教育は教師全員に要求されるべきだが、それは教師の自主性にまつものでなければならず、単位の授与や給与の増額等は不要であると提案された。

シンポジウムは時間的な制約を受けているため、多くの疑問を残したままに終わった。私は投宿しているホテルに帰って疑問を次のように整理してみた。先ず第一の疑問は教育者や教育学者がそれほどまでに強調する主体性（自主性）とは一体何かということであった。そこで私は、それを「他に制約（影響）されずに、自分の自由意志によって選択し、行動する態度」と概念を規定してみた。その場合、果して他（環境）から制約を受けない行動があり得るだろうか。つまり人間は自由に選択し、行動する意志を所有しているのだろうか。いかなる行動でも過去の行動結果の制約を受けていないだろうか。それ（主体性）は教えられるだろうか。もし教えられるのであれば、他（教師）からの制約を受けたことにならないだろうか。もし生徒の行動が主体性によるものであれば、教師の教育に対する一切の責任は免じられることにならないか、等々と教育学を習い始めた青年の頃のようにつきつきと疑問が湧いてきた。

これらの疑問を解消する理論も考えてみた。それは人間の行動を主体性で説明するのではなく環境条件で説明することである。つまり人間の行動は自由意志によって決定されるのではなく、ことごとく環境条件によって統制されたものと考えることができる。その立場にたつと、主体性は一種の錯覚であり、神話にしか過ぎないことになる。したがって前述のシンポジウムで論ぜられた「主体性（精神）に訴える教育論」は無意味であり、不毛な議論に終わったことになる。

統制（コントロール）も概念規定をしないと誤解をまねくかも知れない。ここで言う統制とは、その結果が統制者を利益し、被統制者を不利益にする一般的な概念ではなく、行動と環境の関数関係をいう

のである。つまり環境条件を変えることによって行動が変わるのであれば、その行動は環境条件に統制されていることになる。例えば、方言がそのよい例である。方言(言語行動)はその地方の言語文化(環境条件)に統制されている。

そこで、行動を統制する環境条件とは何かという問題に答えなければならないであろう。その主なものは行動の結果としての報酬(強化子)である。報酬が行動に随伴したために行動は強化され、頻度が増加すると考えられる。したがって行動を統制するには環境条件である利益(強化子)をコントロールすればよいことになる。事実、人間は行動に利益が随伴したとき、もっとも主体的な行動をとる。そのことは日常よく見聞することである。図書館で本を読む場合も意味が分り面白ければ利益になるし、全く分らなければ不利益(時間の浪費)になる。それが主体的な読書行動をコントロールしていることは自明である。

このように、われわれが主体的行動と呼んでいるものは主体性(自律的精神)に因るものではなく、利益にコントロールされた行動のことであると言える。しかし、人間の行動は殆んど利益にコントロールされているにも拘らず、そのことを隠そうとするから不思議である。おそらく、それは真の原因(利益)を曖昧にすればするほど、主体性(精神)が行動の原因とみなされ、他からの賞賛(利益)を受けるからであろう。

今回のシンポジウムで論ぜられた児童・生徒の規律の問題にしる、教師の研修の問題にしる、いずれも彼等の自由意志にまつのではなく、積極的に行動の結果としての強化子を随伴させることが望ましい。強化子が行動を選択させ、方向づけ、繰り返えさせるのであれば、主体性の概念は不要であるからである。

(教育学部教授・教育学)

ブラウジングコーナー

“ 知的 排 泄 物 ”

「知的〇〇」とは国立民族学博物館長の梅棹忠夫氏の「知的生産の技術について」が昭和40年に岩波書店の書評誌「図書」に連載されてから流行った言葉だがおよそ大学というところは古今東西をとわず知的生産の場ではないだろうか。

“知的排泄物”とはさる図書館員が云った言葉だが私も閲覧系の職員にとって毎朝の机上の“ゴム屑”とりはさしずめ知的労働(?)と呼ぶべきか。

ゴム屑(知的排泄物)は利用者の頭脳労働の結果であり、その一つひとつには高度な知的燃焼をみる思いがする。

当節の若者はなんでもいゝたいほうだい、やりたいほうだいという気がするがいくら知的排泄物でも自分のあと始末だけはなんとか自分でやってもらいたいものだ。(閲覧係 H. A.)

“ 神(紙)に見放された者 ” ?

いさゝかびろうな話で申しわけないが人間は一日一回排泄するのが健康体といわれる。

習慣の違いもあるが一日のうち一番朝の人が多いようにみうけられる。開館間もない図書館のお手洗はラッシュそのものであり、図書館員もその前を右往左往していやな気持ちをまんしななければならない場合もしばしばである。

学部のお手洗を使ってみたことのある利用者にはよくわかることだが図書館のお手洗は最もきれいなぶるいにはいると思われる。そのせいか殺到することになる。そしてラッシュをくぐりぬけてやっと自分の“城”を確保することにあいなる。……しばし黙念コトが済んでから気がついたらカベにこうかいてあった。曰く、神(紙)に見放された者は自らの手で運(ウン)をつかめ!と。最高学府に学ぶ学生ともなるとなかなかシャレたことをいう。このせちがらい世の中でこれぐらいのユーモアは解したいものだ。(閲覧係 H. A.)

「沖繩研究史」書誌稿(2)

—考古・歴史篇—

新城安善

はじめに

本稿は、前回に続いて〈考古・歴史〉の領域の研究史を収録したものである。

〈総括篇〉(追補)

「新沖繩学」のすすめ(文化断章) —祖国復帰と人間復帰(豊平良顕)

〔朝日ジャーナル〕12巻19号(1970)

喜舎場永珣と八重山研究(三木健)

〔青い海〕2巻6号～7号(1972) → 〔八重山近代民衆史〕(三木健著)(1980) 三一書房刊
原題は、〈鷲の島・八重山学の父—喜舎場永珣翁伝覚書〉

沖繩学の成果と課題(上田正昭)

〔日本史研究〕129号(1972)

沖繩研究への視点(東江平之)

〔沖繩経験〕5号(1973)

海外における沖繩研究とその動向—特に米国を中心としての1960年代後半の成果(漢那憲治)

〔沖繩経験〕5号(1973)

沖繩における学術研究体制の現状と課題—中間報告(日本学術会議沖繩問題特別委員会編)(1974)

伊波普猷と沖繩学—あるいは「開かれた国学」(谷川健一)

〔新沖繩文学〕31号(1976)

座談会 伊波普猷と現代—その今日的意義を考える(宮里栄輝 大田昌秀 太田良博 金城正篤 渡名喜明
新川明) 〔新沖繩文学〕31号(1976)

〈考古篇〉

南島の先史時代(三宅宗悦)

〔人類学先史学講座〕16巻(1940)

琉球列島の貝塚分布と編年の概念(多和田真淳)

〔文化財要覧〕1956年版 → 〔多和田真淳選集〕(1980)

琉球列島の貝塚分布と編年の概念補遺(1)(多和田真淳)

〔文化財要覧〕1960年版 → 〔多和田真淳選集〕(1980)

琉球列島における遺跡の土器 須恵器 磁器 瓦の時代区分(多和田真淳)

〔文化財要覧〕1961年版 → 〔多和田真淳選集〕(1980)

沖繩における考古学界の現況(続)(友寄英一郎)

〔考古学雑誌〕47巻3号(1961)

沖繩考古学の諸問題(友寄英一郎)

〔考古学研究〕11巻1号(1964)

南西諸島土器文化の諸問題(三島格)

〔考古学研究〕13巻2号(1966)

沖繩における埋蔵文化財の現状と保護(亀井正道)

〔日本歴史〕246号(1968)

最近の沖縄における考古学会の動向(新田重清)

〔琉大史学〕1号(1969)

考古学の周辺(多和田真淳)

〔南島考古〕1号(1970)→〔多和田真淳選集〕(1980)

対談 南西諸島の考古学研究をめぐって(R・ピアソン 国分直一)

〔考古学ジャーナル〕56号(1971)

沖縄考古学界の諸問題(多和田真淳)

〔月刊琉球放送〕(1971)→〔南島考古だより〕10号(1972)→〔多和田真淳選集〕(1980)

南島史研究の問題点(国分直一)

〔地方史研究〕112号(1971)

南島先史土器の編年をめぐって一再び嵩元政秀氏へ(国分直一)

〔南島考古〕2号(1971)

考古学の諸問題とその現状(嵩元政秀)

〔沖縄歴史研究〕9号(1971)→〔沖縄文学論叢〕1巻 歴史編(1974)平凡社刊

琉球陶器の分類学的考察(多和田真淳)

〔考古学ジャーナル〕67号(1972)→〔琉球の文化〕1号(1972)→〔多和田真淳選集〕(1980)

日本民族文化の研究をめぐる諸問題(国分直一)

〔日本民族文化の研究〕(国分直一著)(1972)慶友社刊

南島先史時代の研究(国分直一著)

(1972)慶友社刊

南島考古学の諸問題(国分直一)

〔史学研究〕(東京教育大学文学部編)86号(1972)→〔環シナ海民族文化考〕(国分直一著)(1976)慶友社刊

八重山考古学の諸問題(当真嗣一)

〔南島史論—富村真演教授還暦記念論文集〕(琉球大学史学会編)(1972)

南島古代文化の系譜—先史時代の深さ・海上の交渉をめぐって(国分直一)

〔南島の古代文化〕(国分直一 佐々木高明編)(1973)毎日新聞社刊

異人の見た沖縄考古学(R, J, ピアソン)

〔南島考古〕3号(1973)

沖縄原始社会史研究の諸問題—考古学的成果を中心に(高良倉吉)

〔沖縄歴史研究〕10号(1973)

沖縄先史土器(前期)編年の試み(安里 進)

〔琉球の文化〕5号(1974)

貝塚時代前期編年の諸問題—室川貝塚の発掘調査から(知念 勇)

〔沖縄タイムス〕1975年2月13日~14日

沖縄諸島の考古学研究(当真嗣一)

〔琉大史学〕7号(1975)

最近の沖縄における考古学(嵩元政秀)

〔琉球新報〕1976年3月18日~23日

沖縄県—地域考古学界の動向(嵩元政秀)

〔考古学ジャーナル〕118号(1976)

南西諸島—1975年の考古学の動向(新田重清)

〔考古学ジャーナル〕123号(1976)

南西諸島—1976年考古学の動向(嵩元政秀)

〔考古学ジャーナル〕137号(1977)

南島研究の展開と現状(三島 格)

〔貝をめぐる考古学〕(三島 格著)(1977)学生社刊

研究史 南島の考古学(国分直一)

〔日本民族の黒潮文化〕(黒潮文化の会編)(1977)角川書店刊

沖縄考古学の諸問題(沖縄考古学会)

〔石器時代の沖縄〕(沖縄考古学会編)(1978)新星図書刊

座談会 原始沖縄を語る(大城 健 仲松弥秀 野原朝秀 高宮広衛 嵩元政秀 友寄英一郎)

〔石器時代の沖縄〕(沖縄考古学会編)(1978)新星図書刊

南西諸島—考古学界の動向(1977年)(当真嗣一)

〔考古学ジャーナル〕149号(1978)

沖縄諸島における新石器時代の編年(試案)

〔南島考古〕6号(1978)

沖縄考古学雑感(友寄英一郎)

〔考古学ジャーナル〕147号(1978)

琉球考古学の周辺科学(英文)—遺稿(友寄英一郎)

〔南島考古〕6号(1978)

南西諸島—1978年考古学界の動向(知念 勇)

〔考古学ジャーナル〕165号(1979)

八重山古代文化をめぐる諸問題(国分直一)

〔沖縄タイムス〕1979年12月11日～13日

琉球列島の貝塚分布と編年の概念補遺(2)(多和田真淳)

〔多和田真淳選集〕(1980)

<歴史篇>

真境名笑古を憶う(東恩納寛惇)

〔琉球新報〕1952年11月13日～15日

近世沖縄史の諸問題(山本弘文)

〔歴史評論〕83号(1957)→〔歴史評論〕163号(1964)→〔沖縄文化論叢〕1巻 歴史編(1972)平凡社刊

歴代宝案と沖縄史の研究(小葉田 淳)

〔琉球新報〕1960年11月30日～12月1日

座談会 東恩納寛惇先生をしのぶ(宮里栄輝 源 武雄 山里永吉 川平朝申 新垣美登子 池宮城秀意)

〔琉球新報〕1963年1月29日～2月2日

戦後史研究の意義(井上秀雄)

〔琉球新報〕1964年3月31日～4月3日

沖縄歴史の考え方—教科書「琉球の歴史」の理論的背景(仲原善忠)

〔沖縄タイムス〕1966年7月2日～27日→〔仲原善忠選集〕上巻(1969)→〔仲原善忠全集〕上巻(1977)

沖縄タイムス社刊

- 座談会 沖繩史の展望—沖繩研究の現状はこれでよいのか(宮城栄昌 名嘉正八郎 新城安善 宮城鷹夫)
〔新沖繩文学〕3号(1966)
- 対談 沖繩歴史研究のこれまでと今後(安良城盛昭 新里恵二)
〔沖繩タイムス〕1967年10月30日～11月4日→〔歴史評論〕259号(1972)→〔新・沖繩史論〕(安良城盛昭著)(1980)沖繩タイムス社刊
- 沖繩近代史研究の歴史と現状—「琉球処分」の歴史的意義と評価を中心に(我部政男)
〔沖繩文化〕6巻2号(1967)→〔琉球新報〕1967年11月15日～22日→〔明治国家と沖繩〕(我部政男著)(1979)三一書房刊
- 沖繩史学習で何を学ばせるべきか—現実の課題と研究成果をふまえて(田港朝昭)
〔沖繩歴史研究〕4号(1967)
- 伊波普猷試論—その歴史認識の検討を中心に(金城正篤)
〔琉球新報〕1967年9月27日～10月7日
- 地方史研究の現状—沖繩(宮城栄昌)
〔日本歴史〕234号(1967)→〔地方史研究の現状〕3巻 中国・四国・九州・沖繩編(日本歴史学会編)(1969)吉川弘文館刊
- 沖繩近代史研究会の成果と課題—我部政男氏の論稿にふれて(金城正篤)
〔琉球新報〕1968年1月10日～15日
- 伊波普猷の思想—地方原理の創出とデモクラシーの地方伝播(比屋根照夫)
〔琉球新報〕1968年8月13日～26日
- 近代史研究の意義と課題(金城正篤 上原兼善 島尻勝太郎 田港朝和 西原文雄 金城 功 安仁屋政昭 田港朝昭 西里喜行 仲地哲夫 山川宗秀)
〔沖繩タイムス〕1968年10月17日～11月1日
- 本土における沖繩史研究の最近の動向—私と沖繩史研究(小葉田 淳)
〔琉大史学〕1号(1969)
- 座談会 仲原善忠氏を語る(仲宗根政善 外間守善 大田昌秀)
〔沖繩タイムス〕1969年1月12日
- 沖繩地方史研究の現状(宮城栄昌)
〔琉球新報〕1969年3月25日～4月4日
- 沖繩近代史への視点—沖繩の百年を軸として(宮城栄昌)
〔琉球新報〕1970年2月4日～7日
- 近代史研究の意義と課題(沖繩歴史研究会共同執筆)
〔近代沖繩の歴史と民衆〕(沖繩歴史研究会編)(1970)
- 「沖繩歴史」研究の現状と問題点(金城正篤 西里喜行)
〔歴史学研究〕357号(1970)→〔沖繩文化論叢〕1巻 歴史編(1972)平凡社刊
- 沖繩認識と歴史認識—旅行者による発想の試み(黒羽清隆)
〔歴史学研究〕357号(1970)
- 祖国復帰運動史の総括と教訓(西里喜行)
〔歴史評論〕238号(1970)
- 近代史研究の一視点—謝花 昇・伊波普猷をめぐる(新川 明)
〔沖繩タイムス〕1970年9月29日～10月3日

- 伊波普猷と河上 肇（比屋根照夫）
〔沖縄タイムス〕1970年10月15日～20日
- 沖縄問題と歴史家の責任（高良倉吉）
〔日本史研究〕121号（1971）
- 沖縄近代史の諸問題（新里恵二）
〔文化評論〕124号（1971）
- 沖縄史研究のすすみ方について（黒羽清隆）
〔歴史地理教育〕176号（1971）
- 地理学とくに人文地理学よりみたる沖縄研究の課題（小川 徹）
〔人類科学〕23号（1971）
- 「沖縄近代史」研究の現状と課題（仲地哲夫）
〔地方史研究〕112号（1971）
- 古代・中世沖縄史研究について（銘荊 進）
〔南島考古〕2号（1971）
- 沖縄地域史研究における時代区分（田港朝昭）
〔沖縄歴史研究〕9号（1971）→〔沖縄文化論叢〕1巻 歴史編（1974） 平凡社刊
- 西南日本史の諸問題—沖縄の場合（宮城栄昌）
〔地方史研究〕112号（1971）
- 沖縄歴史についての問題提起—日本地方史研究会の開催に寄せて（宮城栄昌）
〔沖縄タイムス〕1971年8月17日～18日
- 沖縄における戦争体験と歴史研究（安仁屋政昭）
〔日本史研究〕129号（1972）
- 日本近代史における沖縄の位置（遠山茂樹）
〔歴史学研究〕382号（1972）
- 沖縄政治史研究—近代日本における沖縄（中島昭三）
〔国学院法学〕9巻4号（1972）10巻2号，4号（1972）11巻2号（1972）
- 沖縄の戦後史と歴史研究者の課題（沖縄歴史研究会）
〔歴史学研究〕381号（1972）
- 「琉球処分」研究の成果と課題（仲地哲夫）
〔歴史評論〕266号（1972）
- 本土における沖縄史研究の一定の高まりに対する沖縄在住歴史研究者の意見（来間泰男）
〔歴史評論〕271号（1972）
- 「沖縄文化論叢」第1巻 歴史編解説（新里恵二）
（1972）平凡社刊
- 沖縄研究の歴史と思想（金城正篤）
〔沖縄経験〕4号（1972）
- 「日琉同祖論」の系譜—伊波普猷に即して（金城正篤）
〔琉球大学学生新聞〕1972年9月1日
- 伊波普猷の沖縄史像とその思想—没後25周年記念講演（金城正篤）
〔沖縄タイムス〕1972年9月12日～17日

南島史の周辺—アジア史上の琉球（石原道博）

〔南島史学〕1号（1972）

座談会 戦後史と沖縄戦争体験—沖縄の戦争体験をどう生かすか（安仁屋政昭 太田良博 仲吉良新 新里恵二）

〔沖縄思潮〕1巻4号（1974）

沖縄の歴史と比嘉春潮翁（三木 健）

〔南島史学〕4号（1974）

河上 肇と沖縄—河上 肇の歴史意識解説への試み（住谷一彦）

〔世界〕348号（1974）

沖縄歴史に対する疑問二つ（宮城栄昌）

〔沖縄タイムス〕1975年2月16日～19日

沖縄研究入門講座（4）—沖縄の先史文化（新田重清）

〔沖縄思潮〕6号（1975）

学術（沖縄研究）—歴史学（高良倉吉）

〔沖縄県史〕5巻 各論編4 文化1（沖縄県教育委員会編）（1975）

学術（沖縄研究）—地理学（田里友哲 石井孝行）

〔沖縄県史〕5巻 各論編4 文化1（沖縄県教育委員会編）（1975）

座談会 沖縄の古代史を考える（池宮正治 伊藤嘉昭 新里恵二 高良倉吉 嵩元政秀 比嘉政夫 大城立裕）

〔沖縄思潮〕7号（1975）

東南アジアの旅から—沖縄交易史研究の課題（高良倉吉）

〔沖縄タイムス〕1975年10月14日～11月1日

日本史の中で沖縄史の位置づけ（牧瀬恒二）

〔沖縄タイムス〕1975年12月6日～24日

沖縄史学と孤島苦（中村 哲）

〔新沖縄文学〕31号（1976）

「沖縄」における県市町村史（誌）刊行の実態とその背景—戦前篇（新城安善）

〔南島史学〕9号（1977）

地方史研究動向—沖縄県（高良倉吉 長嶺 操 富島壮英 名嘉正八郎）

〔日本史文献年鑑〕1977年版（1976年刊） 1978年版（1977年刊）（地方史研究協議会編）

柏書房刊

対談 沖縄と歴史研究—転形期の課題を語る（安良城盛昭 高良倉吉）

〔沖縄思潮〕9・10合併号（1977）→〔新・沖縄史論〕（安良城盛昭著）（1980）沖縄タイムス社刊

沖縄史研究の新動向—沖縄歴史研究会研究発表会を聴いて（弓削政巳）

〔沖縄タイムス〕1977年9月30日～10月1日

沖縄研究と私（藤間生大）

〔沖縄タイムス〕1979年2月7日～8日

八重山民衆史の道標—地域史づくりの胎動（三木 健）

〔八重山毎日新聞〕1979年4月17日～25日→〔八重山文化〕7号（1979）→〔八重山近代民衆史〕三木 健著

（1980）三一書房刊

今回は〈民俗・民族篇〉を掲載します。

（整理係長）

昭和54学年度 閲覧(利用)統計表(類別・月別)

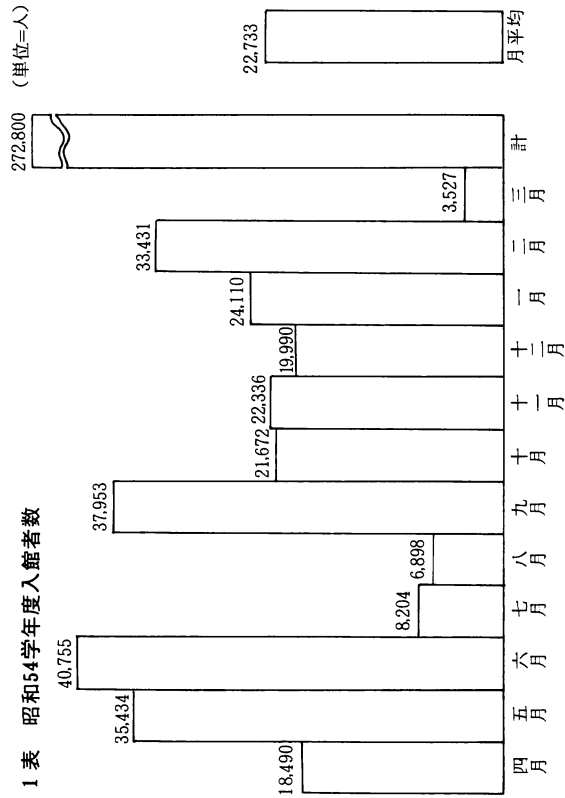
(単位=冊)

A表

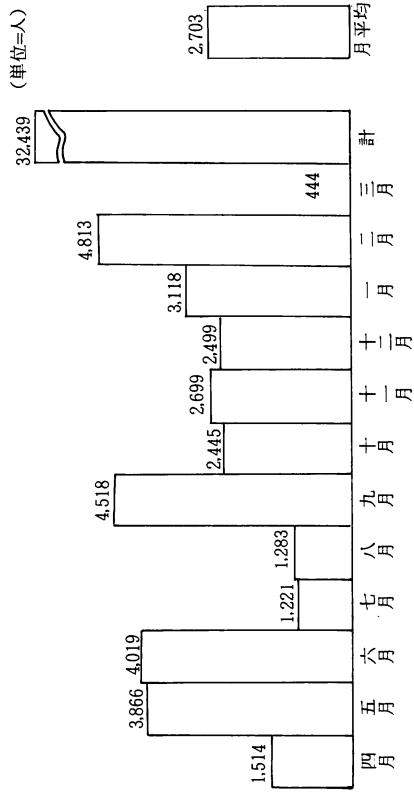
類別	年月		昭和54年度												計	累計	率(%)
	昭和53年 累計	昭和54年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	昭和55年 1月	2	3				
0	和	47,067	136	186	280	152	216	445	221	320	243	184	221	67	2,671	49,738	3.8
	洋	1,468	-	17	17	19	8	1	6	1	5	5	3		82	1,550	2.5
1	和	77,736	109	196	206	64	68	381	174	169	132	301	325	85	2,210	79,946	6.0
	洋	3,165	44	38	58	7	18	45	30	41	45	14	13	29	382	3,547	5.8
2	和	81,665	225	426	228	136	87	413	262	235	224	200	382	129	2,947	84,612	6.5
	洋	2,059	6	5	8	13	5	10	2	8	5	9	6	3	80	2,139	3.5
3	和	345,069	727	1,381	1,364	514	496	1,476	1,034	899	1,111	1,098	1,495	171	11,766	356,835	27.4
	洋	9,134	63	123	38	88	100	92	106	92	160	58	62	54	1,036	10,170	16.5
4	和	243,674	476	1,645	1,750	556	521	1,642	966	807	835	1,107	2,025	124	12,454	256,128	19.7
	洋	13,196	118	280	159	170	112	163	179	187	212	170	193	61	2,004	15,200	24.8
5	和	108,280	230	615	714	205	243	492	320	575	481	689	1,071	107	5,742	114,022	8.8
	洋	5,544	43	30	25	25	26	35	36	52	48	29	35	28	412	5,956	9.7
6	和	66,841	201	188	301	122	64	331	218	148	175	223	249	37	2,257	69,098	5.3
	洋	3,247	73	49	19	38	20	18	10	85	15	29	10	5	371	3,618	5.9
7	和	48,107	85	251	397	92	103	361	157	172	172	192	271	32	2,285	50,392	3.9
	洋	626	1	6	10	2	1	2	2	2	2	7	6		39	665	1.1
8	和	35,421	130	152	180	44	33	242	171	106	99	112	150	59	1,478	36,899	2.8
	洋	5,291	130	30	36	82	26	33	25	36	26	42	32	2	500	5,791	9.4
9	和	201,155	211	508	445	153	162	475	370	503	376	376	562	52	4,193	205,348	15.8
	洋	11,957	65	112	109	28	25	85	91	72	70	57	70	8	792	12,749	20.8
計	和	1,255,015	2,530	5,548	5,865	2,038	1,993	6,258	3,893	3,934	3,848	4,482	6,751	863	48,003	1,303,018	100
	洋	55,687	543	690	479	472	341	484	487	574	588	420	430	190	5,698	61,385	100
合計		1,310,702	3,073	6,238	6,344	2,510	2,334	6,742	4,380	4,508	4,436	4,902	7,181	1,053	53,701	1,364,403	
人員		898,256	1,514	3,866	4,019	1,221	1,283	4,518	2,445	2,699	2,499	3,118	4,813	444	32,439	930,695	
入館者		4,646,631	18,490	35,434	40,755	8,204	6,898	37,953	21,672	22,336	19,990	24,110	33,431	3,527	272,800	4,919,431	
開館日数		6,905	21	24	26	26	25	22	23	23	21	22	24	24	281	7,186	

註：1 農工図書室を含む。但し保健学部は除く。
2 B表以後はそれぞれA表の内訳である。

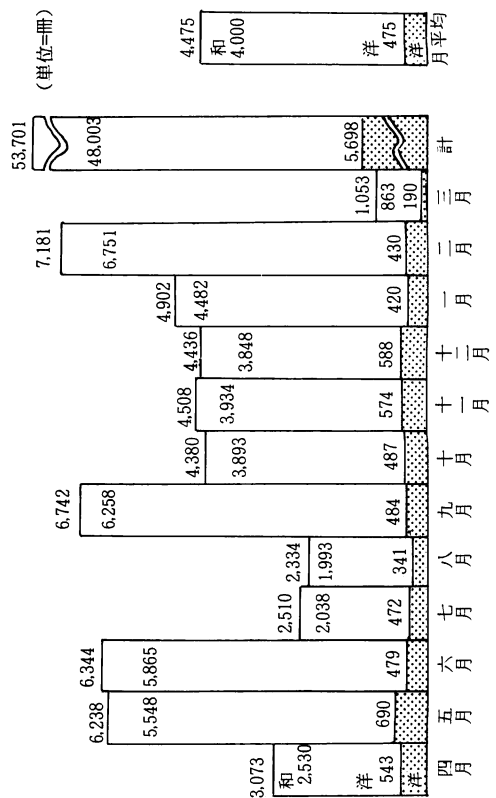
1表 昭和54学年度入館者数



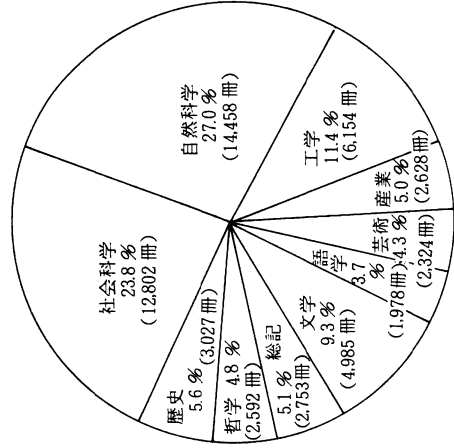
3表 昭和54学年度貸出人員



2表 昭和54学年度貸出冊数



4表 昭和54学年度分類別貸出冊数



(註) 7, 8, 3月は夜間開館なし

昭和54学年度 学生閲覧統計表 (学部別・月別)

B表

学部別	年月	昭和54年度												昭和55年 1月	2	3	(%) 計	総計
		昭和42年 現在	昭和53年 累計	昭和54年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12						
冊	法		192,219	521	1,269	1,277	434	470	1,881	958	1,012	1,020	1,080	1,818	149	(30.0) 11,889	204,108	
	教		154,132	414	1,086	1,136	354	340	1,463	789	840	735	936	1,433	92	(24.3) 9,618	163,750	
	理		116,304	358	853	874	233	272	824	477	547	494	593	1,063	59	(16.8) 6,647	122,951	
	工	537,565	—	139	594	619	160	172	526	260	478	412	552	889	61	(12.3) 4,862	4,862	
	保		20,905	79	318	398	87	107	484	135	125	144	184	330	10	(6.1) 2,401	23,306	
	農		79,515	105	316	422	91	69	464	212	189	162	294	418	22	(7.0) 2,764	82,279	
	短		15,065	27	85	129	29	40	185	113	116	126	166	275	29	(3.3) 1,320	16,385	
	院		99	13	10	11	7	0	11	8	3	3	13	9	7	(0.2) 95	194	
	計	537,565	1,115,804	1,656	4,531	4,866	1,395	1,470	5,838	2,952	3,310	3,096	3,818	6,235	429	(100) 39,596	1,155,400	
	人	法		144,298	368	958	971	268	278	1,237	635	688	622	769	1,290	94	(28.6) 8,178	152,476
教			115,464	318	823	838	197	241	1,103	564	580	518	669	1,020	51	(24.2) 6,922	122,386	
理			92,159	279	668	681	154	182	617	354	405	372	442	786	38	(17.4) 4,978	97,137	
工		395,658	—	103	458	470	115	115	405	207	357	299	416	641	42	(12.7) 3,628	3,628	
保			15,542	56	249	309	61	86	376	105	90	106	128	231	6	(6.3) 1,803	17,345	
農			60,512	77	257	316	66	47	354	159	148	121	206	315	13	(7.3) 2,079	62,591	
短			11,103	21	66	90	18	28	132	78	85	90	127	201	13	(3.3) 949	12,052	
院			67	11	9	8	4	0	7	7	3	2	11	6	2	(0.2) 70	137	
計		395,658	834,803	1,233	3,488	3,683	883	977	4,231	2,109	2,356	2,130	2,768	4,490	259	(100) 28,607	863,410	

昭和54学年度 学生閲覧統計表(類別・月別)

C表

(単位=冊)

年月 類別	昭54年											昭55年			計	%	%
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	2	3					
0	和	71	104	151	80	137	407	130	223	199	155	160	22	1,839	4.7	4.7	
	洋	—	—	3	—	—	—	2	—	—	—	2	—	7	0.9		
1	和	78	180	189	53	41	351	137	147	110	255	308	42	1,891	4.9	4.9	
	洋	8	7	2	—	—	—	—	4	3	2	6	1	33	4.0		
2	和	96	198	186	60	52	379	164	185	166	157	344	38	2,025	5.2	5.2	
	洋	1	4	2	—	2	5	—	2	4	3	3	1	27	3.3		
3	和	401	1,042	1,035	317	301	1,294	685	683	833	832	1,338	94	8,855	22.8	22.5	
	洋	3	10	5	9	6	9	1	5	1	4	4	1	58	7.0		
4	和	395	1,440	1,585	386	418	1,570	820	722	654	951	1,897	78	10,916	28.1	27.8	
	洋	8	16	17	5	9	9	3	14	4	10	6	1	102	12.4		
5	和	164	556	609	148	179	464	212	488	393	613	969	45	4,840	12.5	12.2	
	洋	—	—	—	—	—	—	2	3	—	—	1	—	6	0.7		
6	和	56	112	117	60	42	288	113	99	101	169	199	21	1,377	3.6	3.5	
	洋	2	5	1	—	—	—	—	2	1	1	2	—	14	1.7		
7	和	65	222	369	80	90	350	149	167	141	179	241	25	2,078	5.4	5.3	
	洋	—	6	4	1	1	1	1	—	—	3	4	—	21	2.5		
8	和	81	110	124	32	25	222	145	98	86	79	145	9	1,156	3.0	3.4	
	洋	6	14	20	17	9	23	18	17	16	24	20	1	185	22.4		
9	和	197	468	409	126	138	430	343	420	343	338	537	45	3,794	9.8	10.5	
	洋	24	37	38	21	20	36	27	31	41	43	49	5	372	45.1		
計	和	1,604	4,432	4,774	1,342	1,423	5,755	2,898	3,232	3,026	3,728	6,138	419	38,771	100	100	
	洋	52	99	92	53	47	83	54	78	70	90	97	10	825	100		
合計		1,656	4,531	4,866	1,395	1,470	5,838	2,952	3,310	3,096	3,818	6,235	429	39,596			

昭和54学年度 教官・事務官・学外者の閲覧利用統計表(月別)

D表

年月 種別	昭53年	昭54年											昭55年			計	(%) 累計
	累計	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	2	3				
冊 数	教	149,193	1,341	1,637	1,398	924	657	772	1,297	1,105	1,238	975	837	523	12,704	(77.5)	161,897
	事	27,146	30	21	66	110	50	58	60	68	81	85	66	27	722	(13.3)	27,868
	学外	18,559	46	49	14	81	157	74	71	25	21	24	43	74	679	(9.2)	19,238
	計	194,898	1,417	1,707	1,478	1,115	864	904	1,428	1,198	1,340	1,084	946	624	14,105	(100)	209,003
人 員	教	39,149	252	349	287	282	235	235	296	297	317	299	279	154	3,282	(63.0)	42,431
	事	14,191	18	16	42	34	26	29	25	37	42	41	31	10	351	(21.6)	14,542
	学外	10,113	11	13	7	22	45	23	15	9	10	10	13	21	199	(15.4)	10,312
	計	63,453	281	378	336	338	306	287	336	343	369	350	323	185	3,832	(100)	67,285

新 着 図 書

- | | |
|--|--|
| <p>コンピューター化社会と人間 技術 014-G 43
と人間編集部編 技術と人間 1979
もと居た所 井亀あおい 葦書房 049.1-I23
1978
哲学講義 1~4 P. フルキエ著, 110-F 42
中村雄二郎他訳 筑摩書房
1976-1979
人間観の諸類型 広田繁, 小澤富 114-H74
夫編 文化書房博文社 1978
現代哲学の設計 山田宗睦 116.46-Y19
三一書房 1978
明治思想史 渡辺和靖 べりかん 121.02-W46
社 1978
にんげんの心理と論理 岡田明 140.1-038
学芸図書 1978
自己実現の心理 上田吉一 誠信 141.93-U32
書房 1976
自己を変える 桑名一央 創元社 159-Ku97
1978
古代天皇制国家と原住民 新谷 210.3-Sh 69
行 三一書房 1978
日本人とロシア人 中村新太郎 210.5-N37
大月書店 1978
朝鮮独立運動暗殺史 森川哲郎 210.68-Mo 51
三一書房 1976
昭和動乱の真相 安倍源基 原書 210.7-A 12
房 1977
アイヌ民族と天皇制国家 三一書 211-Sh 69
房 1977
逆流と順流 小倉芳彦 研文出版 222.004-026
1978
中国の二つの悲劇 増井経夫 研 222.065-Ma67
文出版 1978
南海に関する支那史料 石田幹之 223-172
助 生活社 1949
エチオピア王国誌 アルヴァレス 246-A 41
岩波書店
合衆国の誕生 モーガン, 三崎敬 253.04-Mo44
之訳 南雲堂 1976</p> | <p>オーストラリアの歴史 クラーク 271-C 76
著, 竹下美保子訳 サイマル出
版会 1978
蔣経国と台湾 曹聚仁著, 鈴木博 289.2-So 11
訳 三一書房 1978
都市地理学原理 木内信蔵 古今 290.17-Ki 81
書院 1979
鎖国時代日本人の海外知識 開国 290.7-Ka 31
百年記念文化事業会編 原書房
1978
比律賓紀行 仲原善徳 河出書房 292.248-N 33
1941
新しいブラジル 斎藤広志 サイ 296.2-Sa 25
マル出版会 1974
技術から象徴の世界へ 飯塚忠雄 304-I 28
イザラ書房 1979
エコロジー 生きるための生態学 304-Sa 59
サミュエル著, 辻由美訳 東京
図書 1974
現代日本の政治権力経済権力 大 311-082
岳秀夫 三一書房 1979
華国鋒政権成立前夜 齊辛著, 杉 312.22-Sa 17
野明夫, 村田忠禧訳 三一書房
1977
ブラジルの政治 斎藤広志 サイ 312.62-Sa 25
マル出版会 1976
婦人の法的地位 日本法社会学会 313.19-Na77
編 有斐閣 1977
多元社会のデモクラシー レイプ 313.8-L 62
ハルト著, 内山秀夫訳 三一書
房 1979
商法を学ぶ 谷川久・龍田節共編 325-Ta 87
有斐閣 1976
会社更生法 松田二郎 有斐閣 325.24-Ma 74
1979
アメリカ経済発展の再考察 フォ 332.53-F 36
ーゲル著, 田口芳弘, 渋谷昭彦
訳 南雲堂 1977
ソヴェト経済政策史 奥田央 東 333.138-054</p> |
|--|--|

京大学出版会 1979		数学概説 栗林暲和 東京数学社	410.1-Ku 61
日本経済の進路 総合研究開発機	333.6-So 28	1976	
構編 東洋経済新報社 1979		教養課程数学概論 粟国稔 学術	410.1-Ku 68
統率の心理学 藤田忠 日本経営	335.14-F 67	図書 1979	
者団体連盟弘報部 1977		生命の起源と発展 オーゲル著,	466.1-071
総合商社と世界財閥群 久保巖	335.2-Ku 11	長野敬, 石神正造, 川村越共訳	
東京布井出版 1975		共立出版 1974	
消費者は弱者 春日寛 大学教育	365-Ka 79	システム工学 加地郁夫 朝倉書	501-Ka 22
社 1978		店 1978	
格子なき支配 剣持一巳 新泉社	366-Ke 45	風力エネルギー読本 本間琢也編	501.6-H 85
1977		オーム社 1979	
文学でつづる教育史 伊ヶ崎暁生	372.1-I 23	ヨーロッパの風土と住居 島元夫	523-Sh 35
民衆社 1974		古今書院 1979	
文化活動の指導 家本芳郎 明治	374.1-I 21	問われる農業教育 農政ジャーナ	610.7-N 97
図書 1976		リストの会編 農林統計協会	
学級集団づくりの構造 大西忠治	374.1-066	1979	
明治図書出版 1975		補助金と農業・農村 今村奈良臣	611.1-I 44
学級の主人公はぼくらだ 坂本泰	374.1-Sa 32	家の光協会 1978	
造 明治図書 1979		地域農業の進路 桐生司一郎編著	611.1-Ki 54
教室における個々に応じた指導	375-F 48	明文書房 1979	
フロスティンク, マズロー著,		海洋の微小生物 大島泰雄他著	662.6-077
茂木茂八, 安富利光訳日本文化		恒星社厚生閣 1975	
科学社 1977		日本の塩道 富岡儀八 古今書院	669-To 56
子どもの遊びと手の労働 子どもの	375-Ko 21	1978	
遊びと手の労働研究会 あす		観光の現状と課題 日本交通交	688-Ka 56
なる書房 1974		社 1979	
教えること・育てること 坂本光	375-Sa 32	テレビの社会学 井上宏 世界思	699.9-I 57
男 明治図書出版 1978		想社 1978	
高校生の山河 岩淵国雄 高校生	375.26-I 92	芸術への道 リュッツェラー著,	701-L 97
文化協会 1976		川上実訳 美術出版社 1979	
高校生狂詩曲 服部正巳等著 高	375.26-H 44	精神史としての美術史 ドヴォル	702-D 99
校生文化研究会 1978		ジャック著, 中村茂夫訳 岩崎	
手の労働としての造形教育 上野	375.7-U 45	美術社 1978	
省策, 斎藤浩志編著 黎明書房		英語活用ドイツ語入門 福田幸夫	840.7-F 74
1975		白水社 1978	
障害児と遊び 巡静一編著 ミネ	378-Me 19	和文独訳の基本 真鍋良一 三修	846-Ma 43
ルヴァ書房 1975		社 1978	
有事立法が狙うもの 軍事問題研	391-G 94	ドイツ語手紙の書き方 竹内萬兵	846-Ta 67
究会 三一書房 1978		衛 三修社 1978	
数学との出会い ゴルディング著	410-G 17	ドイツ会話40章 石川光庸, 石	847-I 76
竹之内脩訳 岩波書店 1979		川サスキア共著 白水社 1978	

- | | | | |
|---------------------------------|-------------|--|----------|
| 文学の方法 外山滋比古 大修館
1976 | 901-To 79 | 田大学出版社 1974 | |
| 最後の攘夷党 谷川健一 三一書
房 1977 | 913.6-Ta 87 | 中国近世における短篇白話小説の
研究 小野四平 評論社 1978 | 923-067 |
| 雨季 つげ忠男名作選集 北冬
書房 1978 | 913.6-Ts 39 | 詩とリズム; ドイツ近代韻律論
シュトルツ著 坂田正治訳 九
州大学出版会 1978 | 941-St 7 |
| 雑雑雑 ユーモアエッセイ集
草野心平 番町書房 1976 | 914.6-Ku 84 | 愉しかりしわが闇市 レンツ著,
加藤泰義訳 芸立出版 1978 | 943-L 54 |
| 夢と祈祷師 鈴木清順 北冬書房
1975 | 914.6-Su 96 | 巨人 パウル著, 古見日嘉訳 国
書刊行会 1978 | 943-P 28 |
| 陶淵明研究 大矢根文次郎 早稲
921.028-095 | | | |

新着郷土資料

- | | | | |
|---|----------------|--|---------------|
| おきなわピンキリ物語 琉球新報
社編 1979 | K.031-R 98 | 五線譜による沖縄の民謡 普久原
恒勇編 マルフク音楽企画 1978 | K 388.9-F 75 |
| 南山の歴史 金城唯仁編
みりおん印刷 1979 | K 232-Ki44 | 琉球列島植物方言集 天野鉄夫
新星図書出版 1979 | K 470.34-A 43 |
| 黎明期の粟国 伊佐三郎
球陽堂書房 1979 | K 238-I 68 | 琉球の植物 初島住彦 中島邦雄
共著 講談社 1979 | K 472-H 44 |
| 伊波普猷論 外間守善
沖縄タイムス 1979 | K 289-H 82 | 貝の世界 白井祥平 新星図書
1979 | K 484-Sh 82 |
| 沖縄御万人の心—小橋川共男
写真集— 小橋川共男 那覇出
版社 1979 | K 290.38-Ko 11 | ハブと人間 改訂 吉田朝啓
琉球新報社 1979 | K 487.94-Y 86 |
| 沖縄游记 高藤武馬 古川書房
1978 | K 291.99-Ta55 | 沖縄の食養生料理 渡口初美
国際料理学院 1979 | K 492.6-To 23 |
| 激流—ジャーナリストのみた沖縄
戦前・戦後— 池宮城秀意
那覇出版社 1979 | K 302-I 33 | 沖縄の芭蕉紙 安部栄四郎
沖縄タイムス 1979 | K 585.6-A 12 |
| 琉球孤 沖縄文化の模索 儀間進
群出版 1979 | K 305-G 45 | 沖縄振興開発六法 昭和54年版
沖縄開発庁総務課編 全国加除
法令出版 1978 | K 601-052 |
| とすへの選択 沖縄経済—実像と
展望 上・下 沖縄タイムス社
編 1979 | K 332-052 | 概説沖縄農業史 池原眞一
月刊沖縄社 1979 | K 610.2-I 33 |
| 沖縄の村落共同体論 田村浩著
与那国暹編 至言社 1979 | K 362-Ta 82 | 沖縄の農業 来間泰男 日本経済
評論社 1979 | K 612-Ku 63 |
| 日本民俗学のエッセンス
瀬川清子 植松明石編
べりかん社 1979 | K 381.1-Se 16 | 昭和沖縄園芸発達史 宮城桃幸
「昭和沖縄園芸発達史」刊行
委員会 1979 | K 620.2-Mi 73 |
| | | 沖縄県畜産史 當山眞秀 那覇
出版社 1979 | K 640.2-To 79 |

近世対外関係史論 中田易直編 K 682.1-N 31 増補版 有信堂高文社 1979	琉歌の研究 金城唯仁編 K 913-Ki 44 みりおん印刷 1979
沖縄の伝統工芸 沖縄県工芸振興 K 750.4-O 52 センター 1979	殉教者・本宮良の圭一沖縄のキリ K 930-To 45 シタン殉教者・石垣永将一
紅型 沖縄びんがた伝統技術保存 K 753-O 52 会編 染織と生活社 1979	渡久山寛三 ひるぎ書房 1979
八重山芸能と民俗 宮良賢貞 K 772-Mi 81 根元書房 1979	黎明期する日々 生ける練獄の手 K 950-N 99 記 布茂寿 南西企業研究所 1978
琉球文学序説 嘉味田宗栄 K 900-Ka 37 至言社 1979	底辺伝道の記録 富村順一 K 950-To 54 TCA 出版 1979
	逃げる兵 サンゴ礁の碑 K 950-W 46 渡辺憲央 マルジュ社 1979

— 図書館事情 —

<第130回図書館運営委員会要録>

日時：昭和55年10月20日(月) 13:10

場所：会議室(プレハブ2階)

審議事項：

- (1) 後期定例日について
- (2) 昭和56年度購入学術雑誌の選定について

報告事項

- (1) 図書費増額の要請について
- (2) 医学部の設置審査について
- (3) 図書館施工社の落札について

<講演会>

沖縄県大学図書館協議会主催で、米国議会図書館東京支所長アンドル Y. 黒田氏を迎えて「米国議会図書館における最近の進歩」と題して講演会を催した

氏の講演の前に、25分間「米議会図書館の情報システム」と云うビデオを上映してコンピューターサービス・システム等について観覧した。黒田氏の講演とマッチしたビデオで、すばらしい試みであった。

黒田氏の講演は図書館専門職員にも、又非図書館員にも解りやすく、米国議会図書館の努力と広く深いサービスの在り方を知ることができ示唆に富み有意義であった。

参加人員：47名

日時：昭和55年11月2日(火) 10:00～12:00

場所：風樹館

琉球大学附属図書館報 "びぶりお" 第13巻 第3号 [通巻第48号]
 昭和55年12月1日 発行人 平良恵仁 沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地
 電話 87-0101(内線338)